

市指定文化財<天然記念物>

ふくもとしょうもはちまんぐう おおくす 福本聖母八幡宮の大楠

指定日 平成24年5月22日

所在地 菊池市泗水町福本 福本聖母八幡宮



福本聖母八幡宮は、嘉元2年(1304)、日置丹後守恒治が玉名郡千田荘(現在の山鹿市鹿央町千田)の聖母八幡宮を勧請して創建された神社である。

楠は樹高約26m、枝張り約33m、幹周り約7.9mと非常に大振りであり、また樹勢も旺盛である。樹齢は推定700年といわれ、八幡宮創建の際に植えられたものと思われる。

この楠にはキセル貝(陸生の巻貝で、1~1.5cm程度。大きくはカタツムリやナメクジの仲間)の一種が生息しており、特に熊本県内付近では「夜泣貝」と呼ばれている。古くから幼子の夜泣きに効くという伝承があり、現在でも子供の夜泣きがおさまらない家庭では、この貝を持ち帰って枕の下に入れるそうである。なお、貝は生きたまま返さないと効能がないとされる。

なお、クスは「樟」と「楠」で表現されるが、もともと中国では厳密にはそれぞれ別の種類の樹木を指すが、日本では同じ樹木に対しどちらの字も使われるそうである。